

長良川水系のアユに寄生する宮田吸虫

12 年間におよぶ環境調査として

◎森田 城次¹⁾
岐阜医療科学大学¹⁾

環境指標生物Ⅱに分類されるカワニナが生活史上必ず必要である宮田吸虫の系を環境指標として用い、広範な流域を持つ長良川水系の環境調査を 12 年間にわたり行った。

他河川においても応用可能な環境評価法を得る事を目的としている。広範な流域の維持保全のための環境指標が求められているため、宮田吸虫の生活史を用いる方法の予備調査を平成 21 年 4 月から地元漁協と行っており、採捕場所や採捕時期等の基礎条件を整えてきた。

長良川水系全体の感染率は 2009 年から 2014 年までは 100%、2015 年は 87%、2016 年は 95%、2017 年は 90%、2018 年から 2024 年までは 100%であり、各採捕場所での年度ごとの増減を調査した。近年の調査結果と比較すると、4 河川でメタセルカリアの寄生数は安定している。すべての河川において、大きな環境の変化はなかったと考える。

岐阜医療科学大学 0575-22-9401